

## 塩ビ管用接着剤の 種類と使用時の注意点 について教えてください

### Answer

#### 1. はじめに

水道用硬質ポリ塩化ビニル管（以下、「塩ビ管」という）は、長期にわたり安定しており腐食の心配がなく、施工性が良いなどの優れた特長により、水道管の代表的な管種として認められ、60年以上の採用実績があります。

塩ビ管の接続方法には接着接合とゴム輪接合があり、今回は、接着接合に使用する接着剤について説明します。

#### 2. 塩ビ管用接着剤の種類と使用時の注意点

##### (1) 接着剤の規格

塩ビ管の接着接合に使用する接着剤の規格はJWWAS101（水道用硬質ポリ塩化ビニル管の接着剤）になります。接着剤の種類として低粘度と高粘度があり、材質により、HIVP（耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管）用とVP（硬質ポリ塩化ビニル管）用があります（表）。

表 接着剤の種類

種類※	記号	色
低粘度	A	青系
高粘度	B	赤系

※HIVP用とVP用があります。

低粘度は乾きやすく、高粘度は乾きにくくなっているため、目安としては呼び径100までは低粘度を使用し、それ以上は高粘度を使用しますが、施工時の環境や温度により変わります。

##### (2) 塩ビ管材質による接着剤の選定

水道用硬質ポリ塩化ビニル管（JISK6742）と水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手（JISK6743）には、材質の違いにより各2種類があります。灰色のVP（塩ビ管）、TS（塩ビ管継手）と、暗青色のHIVP（耐衝撃性塩ビ管）、HITS（耐衝撃性

塩ビ管継手）です。

そのため、接着剤にはVP材質用とHI材質用があり、各々の塩ビ管と継手の接合強度が適切になるように配慮されています。このため、その塩ビ管の材質に適合する接着剤を使い分ける必要があります。なお、VP材質とHI材質を接合する場合は、HI材質用の接着剤を使用します。

##### (3) 取扱い上の注意点

- ①接着剤は消防法に規定された危険物の第4類第1石油類（非水溶性）に該当するので、保管・取扱いに当たっては、消防法、市町村条例に従ってください。
- ②接着剤は冷暗場所に保管してください。
- ③接着剤の缶を開けた時に、溶剤特有の刺激臭がしない、あるいはゼリー状になっている場合は、接着効果がなくなっているので使用しないでください。
- ④密閉された室内で接着剤を使用する場合は、十分な換気を行ってください。

##### (4) 施工時の注意点

- ①塩ビ管の面取りを必ず行ってください。
- ②継手、塩ビ管の順番で、円周方向に薄く塗布してください。
- ③塩ビ管の挿入後、接合部の弾性により管が抜け出てくることを防止するため、呼び径50以下は30秒以上、呼び径65以上は60秒以上を目処に挿入力を保持してください。
- ④通水洗浄は呼び径50以下は30分、呼び径65以上は1時間経過した後に行ってください。
- ⑤配管工事後の通水加圧試験は、配管工事時の気候（気温）、管径、通水試験圧などを十分考慮して24時間以後に実施してください。

##### (5) その他

塩化ビニル管・継手協会では、WEB上で様々な資料を掲載しダウンロードできますので、活用してください。

（参考文献）

塩化ビニル管・継手協会

・水道用硬質ポリ塩化ビニル管 技術資料

<規格・設計編>

（出典：水道技術ジャーナル 2022年7月）